令和6年度
港区立みなと芸術センター整備に向けたプレ事業

シンポジウム

居場所／共有地としての みなとコモンズ

コモニングから立ち上げる みなと芸術センターの未来

令和7年
1月11日(土)
午後2時～午後5時
（午後1時30分開場）

参加費無料
どなたでもご参加いただけます。

手話通訳あり

一時保育あり
4ヵ月～就学前、5人程度。
希望する人は12月25日(水)までにお申込みください。

令和9年に浜松町二丁目に開館予定の「港区立みなと芸術センター」。

本年度、港区ではそのプレ事業として「みなとコモンズ」という総称のもと、旧三田図書館を活用した居場所スペースを実験的に運用する他、将来的にみなと芸術センターが行う事業のモデルとなるようなアーティスト主導のワークショップを開催しています。

本シンポジウムでは、「みなとコモンズ」の理念や実践を振り返り、みなと芸術センターが目指すべき居場所/共有地としてのコモンズのあり方を議論します。

会場 **リーブラホール**

〒105-0023
東京都港区芝浦1-16-1
みなとパーク芝浦1階

JR「田町駅」東口（芝浦口）
ペデストリアンデッキ　徒歩5分

都営地下鉄浅草線・三田線「三田駅」
A6出口　徒歩6分

定員｜200名(申込順)
募集期間｜令和6年12月1日(日)～令和7年1月10日(金)
お申込み方法｜お申込みフォームからお申し込みください。
お申込みフォームへは以下のQRコードからアクセスいただけます。

問合せ先｜NPO法人　芸術公社
（サイトURL）https://artscommons.asia
（メール）artscommons.tokyo.inquiry@gmail.com

主催｜港区

令和7年
1月11日(土)
午後2時〜午後5時
（午後1時30分開場）

居場所／共有地としての みなとコモンズ
コモニングから立ち上げる、みなと芸術センターの未来

第１部　午後2時〜午後3時15分

①コモニング実践が作り出す新たな居場所

コモニング・ファシリテーターとして「みなとコモンズ」の場作りを行う二人が、そこに集う人々の間で生成するコモニング実践について報告を行います。また港区内で随時実施してきたヒアリング結果を分析し、今後の「みなとコモンズ」が担うべき役割について提言します。

登壇者｜
田村かのこ（アートトランスレーター）
渡辺瑞帆（セノグラファー・建築家）

②演劇的コモンズを活用した ワークショップと創造性

戯曲を声に出して読むリーディング・ワークショップ（上田久美子）、都市の中で深く呼吸をするための体験型ワークショップ「呼吸を探す旅」（キュンチョメ）、各自がテーマをもって港区内をリサーチする「みなコモリサーチコレクティブ」（佐藤朋子）。演劇的な共有知（コモンズ）を活用したワークショップが引き出す人々の創造性とは。実際の参加者も登壇し共に報告を行います。

登壇者｜
上田久美子（劇作家・演出家）
キュンチョメ（アーティスト）
佐藤朋子（アーティスト）
ほか各ワークショップの参加者

第２部　午後3時30分〜午後5時

③ラウンドテーブル

居場所／共有地としての「みなとコモンズ」
コモニングから立ち上げる、みなと芸術センターの未来

第一部の登壇者に加え、芸術と社会、ケアの関係性を研究する専門家を交え、現在進行形の「みなとコモンズ」での実践と、未来の「みなと芸術センター」を接続する自由な議論を行います。コモニングという行為が連鎖することで、人々の創造性や対話力はいかに変容するのか。来るべき共生社会と居場所／共有地としての「みなとコモンズ」の未来とは？

登壇者｜
岡原正幸（社会学者・慶應義塾大学名誉教授）
小川公代（英文学者・上智大学教授）
＋第１部の登壇者

司会｜相馬千秋（アートプロデューサー・東京藝術大学准教授）

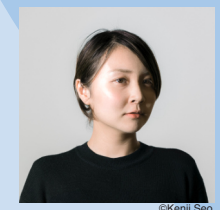
登壇者

田村かのこ（たむら・かのこ）

©Flavio Karrer

アートトランスレーター。アート専門の翻訳・通訳者の活動団体「Art Translators Collective」代表。人と文化と言葉の間に立つ媒介者として翻訳の可能性を探りながら、それぞれの場と内容に応じたクリエイティブな対話のあり方を提案している。

渡辺瑞帆（わたなべ・みずほ）


©Kenji Seo

セノグラファー・建築家。一級建築士事務所セノグラフ／合同会社ガラージュ共同代表。セノグラフでは客席と舞台と都市との関係性に着目し、あらゆる場を劇場と捉え、人の動きの細部を振り付けるような空間の創造を目指している。

上田久美子（うえだ・くみこ）

©matron2023

奈良県出身。一般企業勤務を経て、宝塚歌劇団演出部に入団。オリジナル戯曲で深遠なテーマ性とエンタテイメント性を両立させ支持を集めたが、2022年に退団。同年に、人間ドラマの世界と植物界の二重構造を描いたスペクタクルリーディング「バイオーム」にて岸田國士戯曲賞ノミネート。

キュンチョメ

ホンマエリとナブチのアートユニット。
2011年の東日本大震災を機に結成。芸術は「新しい祈りの形」であると捉え、世界各地で、詩的でユーモラスな作品を制作している。現在は、みなとコモンズ地下一階、熊本市現代美術館、弘前れんが倉庫美術館などで展覧会を開催中。

佐藤朋子（さとう・ともこ）

©大野隆介

1990年長野県生まれ。2018年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。広範なリサーチをもとに物語を構築し、主にレクチャーの形式を用いた「語り」の芸術実践を行っている。

岡原正幸（おかはら・まさゆき）

1957年生まれ。2023年3月31日に慶應義塾大学を定年退職するまで文学部教授および大学院社会学研究科委員長、慶應義塾評議員などを歴任。専門は、感情社会学、障害学、アートベース・リサーチで、パフォーマンスアーティストとしても活動。現在、慶應義塾大学名誉教授。

小川公代（おがわ・きみよ）

©嶋田礼奈

上智大学教授。著書に、『翔ぶ女たち』『ケアの倫理とエンパワメント』『ケアする惑星』（いずれも講談社）、『世界文学をケアで読み解く』（朝日新聞出版）、『ゴシックと身体 ――想像力と解放の英文学』（松柏社）などがある。

相馬千秋（そうま・ちあき）

©NOI CREW

NPO法人芸術公社代表理事、アートプロデューサー。東京藝術大学大学院美術研究科准教授（グローバルアートプラクティス専攻）。領域横断的な同時代芸術のキュレーション、プロデュースを専門としている。